

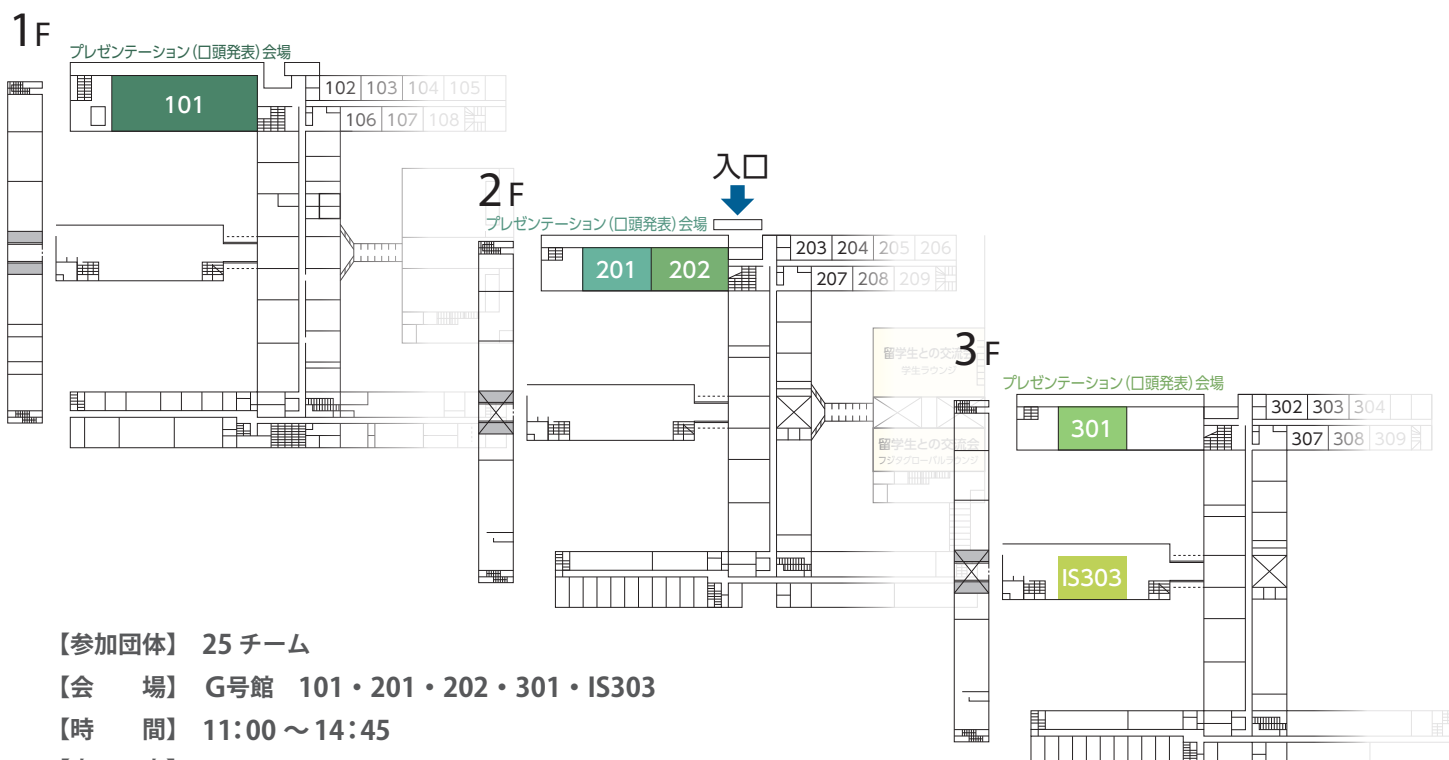


1

研究成果  
プレゼンテーション



# 研究成果プレゼンテーション



【参加団体】 25 チーム

【会 場】 G号館 101・201・202・301・IS303

【時 間】 11:00 ~ 14:45

【内 容】

視覚資料を用いたプレゼンテーション(口頭発表)

発表 番号	時 間	101 教室	201 教室	202 教室	301 教室	IS303 教室
1	11:00 ~ 11:30	1. 東京工業大学附属 科学技術高等学校	6. 高槻高等学校	11. 西大和学園中学校・ 高等学校	16. 鳥取県立鳥取西 高等学校	21. ノートルダム清心学園 清心女子高等学校
2	11:45 ~ 12:15	2. 徳島県立城東 高等学校	7. 宮城県仙台二華 中学校・高等学校	12. 関西学院高等部	17. 静岡県立三島北 高等学校	22. 東京学芸大学附属 国際中等教育学校
3	12:30 ~ 13:00	3. 大阪教育大学附属 高等学校平野校舎	8. 宮崎県立五ヶ瀬 中等教育学校	13. 関西創価高等学校	18. 富士見丘 中学高等学校	23. 昭和女子大学附属 昭和中学校・高等学校
4	13:30 ~ 14:00	4. 名古屋中学校・ 高等学校	9. 早稲田大学 高等学院・中学部	14. 清風南海高等学校	19. 石川県立金沢泉丘 高等学校	24. 埼玉県立不動岡 高等学校
5	14:15 ~ 14:45	5. 岡山県立岡山操山 中学校・高等学校	10. 神戸市立葺合 高等学校	15. 神戸大学附属 中等教育学校	20. 佼成学園女子 中学高等学校	25. 関西学院千里国際 高等部



発表 No.1 東京工業大学附属科学技術高等学校  
加藤 千聖/岩松 功大/松本 直也

## 風と水がつくる2030年の自立発電型エコシティ

101 教室

発表時間/11:00～  
発表言語/日本語

私達は社会全体、特に子供たちが発電方法やエネルギー問題に興味を持ってくれるように、風力と水力を活用した、親しみやすい揺動発電機を開発しました。従来の風力発電は、再生可能エネルギーを活用した発電機の中では効率がよく、環境には優しいですが、騒音や大型設備が原因で設置場所に制限があるというデメリットがあります。この研究では、騒音が少なく、安全で、コンパクトな揺動発電機を、風力と水力を活用して制作し、公園や学校、街中への設置を可能としました。子どもたちが発電機を自らの手で揺動させることによって、電力を生み出す体験をすることができます。この発電機を通して、社会全体がエネルギーを身近に感じ、エネルギー問題に対する意識を高めることができると考えます。



発表 No.2 徳島県立城東高等学校  
鈴木 優太郎/西岡 侑輝

## 持続可能な脱炭素社会形成に向けて 公共交通インフラに再生可能エネルギーを導入するという提案

101 教室

発表時間/11:45～  
発表言語/日本語

私達の地元徳島で日本最大規模の木質バイオマス発電所の建設が計画されていることを知り、世界中で持続可能な脱炭素社会形成に向けて注目されている再生可能エネルギーの活用可能性に関心を抱き始めました。書籍やインターネット等で情報を得る中で、私達は徳島の公共交通インフラに、再生可能エネルギーを導入するという提案を考えました。バスなどの公共交通インフラに、バイオマスや太陽光で発電したエネルギーを導入することにより、公共交通インフラを稼働させるために必要な化石燃料やCO<sub>2</sub>排出量が削減できます。また県民への公共交通機関利用動機付けによって、自動車利用率が減少することや、蓄電機能活用によって、災害時の移動可能非常電源として活用することが期待できます。公共交通機関を利用する社会の再構築により、地域の方々の交流機会を創出し、地域コミュニティ形成にも貢献できると私達は考えます。



発表 No.3 大阪教育大学附属高等学校平野校舎  
妹尾 和樹/米川 まこ/細川 涼加/堀 淳翔

## 東南アジアにおける蚊の感染症を減らすためには

101 教室

発表時間/12:30～  
発表言語/日本語

本研究では、東南アジア地域における蚊の媒介による感染症の拡大を鑑み、今後の東南アジア地域におけるそれらが引き起こす被害の低減を目的として、蚊の発生を抑制する方法を検討しました。当該テーマに関する先行研究として『銅の殺菌性』が挙げられ、これはボウフラの発生を抑制する銅の効果を示し、私達のチームは銅を当該地域の池等の水が貯まりうる場所に投入することでボウフラの発生を低減できると考えました。しかし、盗難される可能性があることから、本研究では投入する銅を粉末やチップ状にすることで、簡単には採取されないようにできると考え、それを仮説としました。本研究は、東南アジア地域をはじめとする蚊の発生する場所すべてにおいて応用が可能で、多くの人命を救い、また蚊の媒介による感染症に対する対症療法的な対策方法に比べて非常に安価かつ根本的に解決できます。



発表 No.4 名古屋中学校・高等学校

松岡 謙心/一色 正太郎/中野 清多郎/加藤 達也/増田 尚爾

## 災害時の避難所が抱える感染症リスクとその対策

～本校の避難所宿泊訓練を通して分かったこと・伝えたいこと～

101 教室

発表時間/13:30～

発表言語/日本語

減災をテーマに活動している私たちは、多年にわたって学校内外で防災・減災活動を行ってきた。本発表では、私たちは避難所の衛生問題に焦点を当てた考察を行う。長期にわたる避難所生活には、感染症の蔓延という大きな健康リスクが潜在している。このリスクを低減するためには、手指消毒の徹底、及びトイレ等の空間と生活空間の分離が有効であるが、運営主体である行政・自治体・自治会による呼びかけなどの指導では、効果が薄いことが指摘されている。一方で、被災者と直接・長期に接する学生・生徒ボランティアによる、手指消毒等の呼びかけに対しては、幅広い年齢層の方々から好意的に受け入れられているということが、私たちの調査で明らかになった。感染症の蔓延を防ぐ上で、私たち高校生だけが、そして高校生にこそ果たせる大きな役割があるのである。本発表は、これからの避難所運営に関して、新たな指針を示すものである。



発表 No.5 岡山県立岡山操山中学校・高等学校

廣田 美桜/猪原 彩美

## 岡山県の中学生・高校生の皮膚がんに対する意識に関する調査

101 教室

発表時間/14:15～

発表言語/日本語

私達は、岡山の高校生の皮膚がんに対する意識のあり方について研究しています。目的は、岡山の高校生が皮膚がんについてどれくらいの認識を持っているのかを明らかにし、皮膚がん予防のための啓発を行うための提言をすることです。調査方法は岡山に住む学生920名を対象に質問紙調査を用いて行い、皮膚がんという病気に関してどれほど認識しているのかについて尋ねる予定です。先行研究によると、皮膚がんの主な原因は紫外線であり、オゾン層の破壊により紫外線量が増えると言われていています。オゾン層の破壊は地球温暖化に加え、異常気象、たとえば激しい豪雨によって生じる水蒸気によっても引き起こされるとされています。2018年7月、岡山でも豪雨による甚大な被害を受けました。このことから、今後私たちが住む地域でも紫外線量増加によって皮膚がんになる危険性が高まる可能性があり、早い段階から皮膚がん対策を行う必要があると考え、研究を進めています。



発表 No.6 高槻高等学校  
小原 大輝

## パラオ共和国における生涯学習

201 教室

発表時間/11:00～  
発表言語/英語

The primary purpose of this research is to seek a suitable style of lifelong learning in Republic of Palau. In Republic of Palau, where I did fieldwork in November, school educational institution and system for children have already been improved. However, there are few opportunities of lifelong learning for all ages. As previous research has already pointed out, lifelong learning, in which people of all ages should be able to learn throughout life, has drawn attention of the world since UNESCO published lifelong learning policy in 1965. There are some countries in the world which are trying to promote the policy. Japan is a prominent example of them. This research examines economic and social backgrounds which prevent people in Palau from obtaining opportunities of lifelong learning.



発表 No.7 宮城県仙台二華中学校・高等学校  
小泉 みのり

## The Possibilities of Improving Salt Damaged Soil Conditions with Composted Halophiles

201 教室

発表時間/11:45～  
発表言語/英語

It is reported that salt damage in Mekong Delta has affected crops on a large scale since the drought in 2016. Calcium is generally used to remove the salt in the soil. In Japan, nanohana is also an effective way to improve the condition of the soil. However, both of the methods need to be taken a lot of steps before actually being applied to the soil. Based on previous research that indicates halobacteria mixed with compost can lower the salinity of salt damaged soil, we have been trying to find out the environment which halobacteria can survive and its action to salt and to make compost with the bacteria to improve the saline soil. With this research, new method of removing salt will be suggested to countries which are suffering from serious salt damage over the years.



発表 No.8 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校  
和田 真季

## Farm stay in Gokase ～To make Gokase town more attractive for foreigners～

201 教室

発表時間/12:30～  
発表言語/英語

The purpose of this research is to increase the annual independent revenue resources of Gokase town. To solve this problem, I decided to increase the number of tourists in Gokase town. Takachiho town, which is the town next to Gokase, is flourishing through tourism. Many foreigners visit there. However, we don't see many foreigners in Gokase, so I decided to make a tour that includes farm stay, which is a unique charm point of our town. I will ask the participants to post some photos on SNS. I'm also thinking of giving them a questionnaire to revise my tour plan based on their advice. If many foreigners will come to Gokase, we can interact with foreigners easily and have a deeper understanding of our town. I hope my research will help the people in Gokase and serve as a good model.



発表 No.9 早稲田大学高等学院・中学部  
燕昇司 健吾/佐藤 理久/室井 穰/徳永 諒/山本 凜太郎

## 日本在住の外国人児童に対する日本語教育政策の考察 ー英国と比較してー

201 教室

発表時間/13:30~  
発表言語/英語

---

We believe that a thorough second language policy is required to cope with the inevitable increase in foreign children. By having a sufficient language education system for them, Japan will be able to cultivate a new generation that can contribute to the demographic it has. We researched the current situation in Japan, where we looked at how they educated foreign children. Following research in Japan, our team researched British Schools along with the immigration problem in the U.K. as a whole. It could be said that Japan's policies lacked sufficiency with guidelines deficient in educating these people. However, Japan should not copy everything the U.K. does, so we decided to consider the most effective methods Japan could take in order to meet the needs of an upcoming diverse society.

---



発表 No.10 神戸市立葺合高等学校  
卜田 菜緒子/角田 菜月

## Diversity in Japanese workplaces

201 教室

発表時間/14:15~  
発表言語/英語

---

The purpose of our research is to elucidate ways to develop gender diversity in the Japanese workplace to make a more inclusive society. According to Mitsubishi UFJ and Research Consulting (2015), about 60% of Japanese companies don't hire women administrators. We will focus on encouraging gender diversity in Japanese workplaces by increasing the number of women administrators. To do so we will work on reducing the factors that discourage women from pursuing promotions. We conducted an interview with a company that promotes diversity. Also, internships impact how people decide their future career, so we would like to compare Japanese internships to internships in different countries. We will present a suggestion to increase the number of women administrators through internships.

---



発表 No.11 西大和学園中学校・高等学校  
猪飼 秀朗/石井 颯汰/浦野 昂大/北島 彰汰/多田 翔平

## 初等教育×農業が貧困解決 ～不平等と気候変動の問題に対応する～

202 教室

発表時間/11:00～  
発表言語/日本語

私たちはインドを訪れた経験から、インドの貧困を解決することを目標に研究してきました。現在貧困の削減において不平等と気候変動が大きな障壁となり、気候変動に関しては、貧困層の多くが従事する農業の生産性が南アジアなどを中心に今後大きく減少し、貧困層が最も被害を被ると予測されています。気候変動に対応するための貧困層でも適用できる持続可能な農法等が多く考えられている一方、先行研究によるとインドの農民の約6割が農業情報にアクセスできず、また世界的に情報の取得に男女格差が存在することも明らかになっています。私たちは不平等を縮小するには教育が重要と考え、こうした情報格差を初等教育を通じて解消し、貧困層が実用化できるプランを現地の価値観に即した形で、政府と自・小作農・農業労働者の視点から考察し、提案します。これらの問題は世界の多くの貧困層に共通で、本研究成果が世界の貧困削減にも貢献できると考えます。



発表 No.12 関西学院高等部  
柏木 麻理子/種村 圭依人/村上 聡/海本 晋太郎/今西 敏部

## 数学的活動によって創造的な人を育てる方法の研究と その方法のアジア圏での普及

202 教室

発表時間/11:45～  
発表言語/日本語

私達の仮説は、数学とITにおいて、既成の問題を变形することで新発見が可能で、変形力は練習によって育成でき、他分野にも応用可能ということである。この変形方法を、授業、ASEAN諸国でのワークショップで実践し、結果を分析して、研究している。私達の高校では25年間数学研究が行われてきて、国際的雑誌や学会で発表されてきた。その研究方法を分析したところ、一定の問題変形でかなりのレベルの研究が可能であることがわかった。これは、Computational Thinkingという問題解決方法に似た、問題提起方法が中心になっていることがわかった。直接的な先行研究はないが、あえてあげると、Computational Thinkingとなる。世界全体で、創造的な人の育成が課題となり、その手段として、私達の方法も日本での講演、アセアン教育省でのワークショップを通じて、アジア圏を中心に普及しつつある。



発表 No.13 関西創価高等学校  
照喜納 明美/藤井 晴香/田中 義幸

## 核廃絶を実現するための効果的な教育プログラムの実践

202 教室

発表時間/12:30～  
発表言語/日本語

核廃絶という世界が抱える課題の前には、多くの壁が立ちはだかっています。その中の一つが人々の核兵器に対する無関心さです。しかし、いくつかの団体が行った若者への調査結果からは、核廃絶への関心はありながら行動を起こせていない若者が多い事がわかりました。「平和と人権を守る都市宣言」の中で非核を訴える交野市の学生に、核廃絶について知るだけでなく、自分で考え、行動できるような機会を与えるにはどうすれば良いのか、考え実践します。核兵器禁止条約の採択、北朝鮮の核問題など、核情勢が様々に変化する今、より多くの生徒が核廃絶に一市民として関心を持ち、行動の輪を広げる事が私たちの核廃絶への貢献です。





発表 No.14 清風南海高等学校  
入江 健介/奥野 眞子/藤井 恵将/岩橋 諒

## Kansai Airport in 20 years

202 教室

発表時間/13:30~  
発表言語/日本語

今日、世界的に省エネ化が強く求められている一方で、航空需要が高まることが予測されています。このエネルギー面の矛盾は資源の枯渇問題など多くの課題を抱えています。そこで私たちは、人の移動によるエネルギー消費をテーマに定め、私たちに最も身近である関西空港の20年後のエネルギー消費を考察し、それに応じた対策を考察することを研究課題としました。未来予測はシナリオプランニングと呼ばれる論理的手法を用い、社会影響の大きい「リージョナルジェット」の普及と「東京一極化集中」の2点に注目して行いました。また関西空港におけるエネルギー使用量を可視化するために独自の指標を作成し、各種先行研究などをもとに関西空港のエネルギー消費について考察しました。私たちの研究が、日本が環境先進国となるための政府の取り組みにつながることや、航空技術の進歩のきっかけとなることに期待したいです。



発表 No.15 神戸大学附属中等教育学校  
丹原 彩花

## 第二言語としての英語学習において読書経験が「辞書観」に与える影響

202 教室

発表時間/14:15~  
発表言語/日本語

本研究の目的は、第二言語としての英語学習において、様々な読書経験が学習者の情意面に与える影響を、辞書使用という観点から解明することです。これまでに多くの研究が、辞書を使わない英文読書の効果を明らかにしていますが、辞書使用に対する学習者の考えを反映させた研究は多くありません。そこで本研究では、個々の学習者が持つ、辞書使用に対する価値観を「辞書観」と定義し分類しました。さらに各々の辞書観を持つ学習者に対して、満足度を最も高める読書方法の特徴を予想しました。本調査では、それぞれの読書方法を促すような英文記事を6種類(レベル3種類、使用語彙の特徴2種類)用意しました。各記事を読んだ後に学習者が得た満足度を「辞書との理想のつきあい方に対する到達度」として記録し分析しています。グローバル社会に必要な英語を学ぶ上で、学習者が自分の理想像を追求する助けとなるリーディング学習とはどのようなものか提案します。





発表 No.16 鳥取県立鳥取西高等学校  
小谷 侑愛/田中 萌乃/庄司 悠真/村岡 優菜

## How Rubbish Disposal Methods Contribute to a Sustainable Society ~Comparing Tottori and Adelaide~

301 教室

発表時間/11:00~  
発表言語/英語

We emit a large amount of rubbish every day, so to solve this issue we investigated methods of rubbish disposal. We wanted to inform citizens about this topic and ask them what should be done to improve our environment and how to contribute to a sustainable society. We researched ways of rubbish disposal conducted by local governments and compared civil attitudes between Tottori and Adelaide, Australia.

In Tottori, we separate rubbish into 7 types including burnable, plastic and PET bottles. Many people feel tired of separating rubbish and they don't use compost bins. On the other hand, people in Adelaide separate into 3 types: recyclable, unrecyclable and green waste. With our research findings, we want to raise awareness and consider how to make Tottori's society a sustainable one.



発表 No.17 静岡県立三島北高等学校  
坂田 愛花/山崎 花穂梨

## Why Don't We Decrease Virtual Water?

301 教室

発表時間/11:45~  
発表言語/英語

Virtual Water(VW) is a concept that refers to the amount of water required at the stage of producing agricultural and clothing products. Japan uses the largest amount of VW in the world. However, Japanese don't know this situation. So, we made a short movie and proposes an application for smartphone to let many people know the water risks. We gave a presentation to a professor University of Singapore and she recognized the merit of our application, and many other teachers who are specialists on science also gave us useful information. We want Japanese not only to know about VW but also to take an action to reduce our dependence on VW. Those actions would help to take fewer water risks in the world.



発表 No.18 富士見丘中学高等学校  
佐藤 利香/佐藤 深生/仙石 真心

## Trashed Treasures — FOOD LOSS —

301 教室

発表時間/12:30~  
発表言語/英語

One man's trash is another man's fundamental human right. Our topic is food loss, a worldwide anthropogenic issue. Through surveys and research, we found that food loss occurs due to the lack of understanding and awareness. By understanding the issue of food loss and the importance of food, people will be more conscious and gain more knowledge on this issue. This will then become a trigger to making the influenced become the influencers, causing more people to act upon the food loss problem. The first step is understanding the issue, the second gaining knowledge and becoming more conscious, and the last becoming "influencers" and spreading more information and acting upon the issue, people can create a global and sustainable cycle that will improve the food loss epidemic.



発表 No.19 石川県立金沢泉丘高等学校  
太田 侑里/佐野 里奈/村本 有彩/吉江 美翔/四谷 仰

## 栄養情報の「見える化」～健康を促進する食品ラベルの提案～

301 教室

発表時間/13:30～  
発表言語/英語

We have made two food labels with graphs or pictures to promote consumers' control of intake of nutrition, which leads to prevent people all over the world from suffering from lifestyle-related diseases. We gave a survey to college students to research what they pay attention to in purchasing food. They checked only the use-by date and price, not nutrition. Today' s food labels are too complex to grasp the information. We visited "TANITA Cafeteria" to interview the nutritionists about their original nutrition labeling. Their bar graphs gave us the clue to visualize nutrition information. We are going to make stickers of our food labels and put them on processed foods such as bento or sandwiches. We are looking for some ways to apply them to real situations.

---



発表 No.20 佼成学園女子中学高等学校  
渡邊 彩映

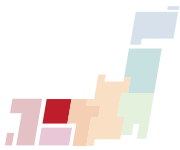
## 再生エネルギーに関する高校生の意識調査 —日本とニュージーランドの比較

301 教室

発表時間/14:15～  
発表言語/英語

In New Zealand, I learned of their prime minister' s policy of achieving 100% renewable energy by 2035. According to the Japanese Ministry of Economy, Trade and Industry, 80% of New Zealand' s energy consumption is supplied by renewable energy, which makes New Zealand the top runner amongst environmentally advanced nations, while only 12% of Japan' s energy consumption is supplied by renewable energy. So, the purpose of my research is to find the reasons behind this difference. My hypothesis was that it could be related to the differences in awareness of the people, such as awareness of the importance of environmental conservation. Through this study, we can make people aware that they have to independently produce and store their own electricity to prepare for the possibility of a shortage.

---



発表 No.21 ノートルダム清心学園 清心女子高等学校  
中塚 里沙/永瀬 友麻/小山 綾菜/乗松 帆香/武本 桃子/江口 愛菜

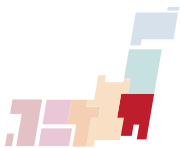
## ジェンダーギャップ指数から考える日本とフィンランド

IS303 教室

発表時間/11:00~  
発表言語/日本語

私たちは日本の家庭内の性別役割分業について、男性よりも女性に多くの負担がかかっている現状に疑問を持ちました。ジェンダーギャップ指数3位であるフィンランドと114位である日本の家庭内の家事・育児などの性別役割分業について比較するため、家庭内の性別役割分業の実態と意識について日本とフィンランドで高校生を対象としたアンケートを取っています。「男性は仕事」、「女性は家事」という考えが日本よりフィンランドの方が希薄であると予想しています。その上で、フィンランドと日本の歴史や国勢、政策、男女の賃金格差などを比較分析することで、どのようにすれば日本がフィンランドのような男女格差のない国になるのかを検討します。

また、ただ闇雲にフィンランドを目指すのではなく、私たちの理想とする家庭像も設定し、今の日本をそれに近づけるために、フィンランドをはじめとするさまざまな国のどのような点を参考にできるのかを考察します。



発表 No.22 東京学芸大学附属国際中等教育学校  
大島 綾乃/福井 真衣

## ヤングケアラーの環境改善と持続可能性

IS303 教室

発表時間/11:45~  
発表言語/日本語

ヤングケアラーとは18歳未満で介護等を担う子供のことです。彼らの苦勞を知り、支援したいと考えました。研究目的は、精神的負担の軽減と認知度向上です。ヤングケアラーという言葉の認知度が低いために支援体制が整っていないという仮説を立てました。文献調査による知識と介護関係者へのヒアリングから得た情報より、高校生の20人に1人がヤングケアラーであること、彼らを取り巻く環境が周囲の人を頼れるか否かに関わることがわかりました。多忙さや支援の需要を熟慮した結果、ウェブサイト上で交流の場を設けることやビジネスの視点からサービスを提供することなどを検討しました。高齢化に伴い、世界でも先駆的に介護に取り組むべき日本が介護体制を整えることで、将来世界の介護分野における指標となることが期待できます。今後の展望はウェブサイトの内容を、調査を行ってきた団体や連携企業、当事者などステークホルダーへの報告会を開催します。



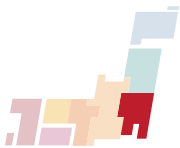
発表 No.23 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校  
長尾 文音/越智 美月

## 脱・負のジェンダーループ

IS303 教室

発表時間/12:30~  
発表言語/日本語

私たちは、ジェンダー先進国の現状を知るため、1週間フィンランドで研修を行いました。本発表は、フィンランドと日本の比較をもとに進めます。日本では、幼少期に知らぬ間に固定概念を植え付けられて育った子供が大人になり、自らの子にも性による固定概念を植え付けてしまうという悪循環があり、これを「負のジェンダーループ」とします。一方、フィンランドでは、幼児期から子を性で区別せず、一人の人間として尊重するジェンダーフリーが浸透していました。それにより、日本のような悪循環はほぼ存在しません。私たちは、日本が悪循環を断ち切るために幼児期からのジェンダーフリー教育が必要と考えます。高校生の私たちができることとして、幼児から小学生を対象に「ジェンダーかるた」を作成し、幼児期からのジェンダーフリー教育の定着を目指しています。負のジェンダーループを解消するために、幼児期からのジェンダーフリー教育を提案します。



発表 No.24 埼玉県立不動岡高等学校  
小林 穂乃佳／武田 敬吾／中村 優希

## 医療・介護って誰のためのもの？ ～多死社会における地域医療・介護のあり方を考える～

IS303 教室

発表時間／13:30～  
発表言語／日本語

超高齢化、その先に多死社会を迎える日本では社会構造の急激な変化に伴い、幅広い分野でそのシステムを見直す必要に迫られています。中でも特に介護・医療分野では後期高齢者と死亡者の急増により、施設・人材不足や看取り体制の不足、社会保障費の膨張など、従来の行政や民間サービスだけでは介護・医療の提供体制は追いつかなくなると予想されています。厚生労働省は「地域共生社会の実現」を掲げ、医療・介護と地域の連携によって、介護や認知症の理解促進から、高齢者雇用、健康維持の工夫やセカンドライフの充実等を推進しようとしています。本研究はエンドオブライフ・ケア（老病死をどう考えるか）を切り口に、私たちの日常生活の場である地域において医療や介護を当たり前を感じるにはどのような地域づくりが必要か。また、高齢者が人生の最終段階を主体的に生き切るためにはどのような支えが大切なのか。を考察します。



発表 No.25 関西学院千里国際高等部  
和田 茉奈実

## 船の避難所の可能性：障がい者の被災後の生活再建のために

IS303 教室

発表時間／14:15～  
発表言語／日本語

先行研究では、各地域に設置される避難所において、障がい者へのサポートが十分に行われていないことが明らかになっている。それを元に本研究ではインタビュー調査を行い、従来の避難所の問題点を分析し、海をフィールドとする船の避難所がその問題点を解決する可能性があるのかを検討した。

旅客船には個室やトイレなど生活に必要な環境が整っていて、海が生活の拠点となるため被災状況にかかわらず自由に島国である日本の各地を行き来することができ、物資を調達することもできるため、障がい者のニーズに合わせた生活環境を提供することができる。

新奇性の高い本研究が、あらゆる分野において、全ての人に平等に安心した生活を提供することへの貢献ができることを世界に示すことができる。